

Title	日本のソフトウェアビジネスに関する研究 - オープンソースソフトウェアが与える影響の分析 -
Sub Title	
Author	吉山, 正治(Yoshiyama, Masaharu) 青井, 倫一
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2099号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	青井研究会	学籍番号	80431028	氏名	吉山 正治
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">『日本のソフトウェアビジネスに関する研究』 ーオープンソースソフトウェアが与える影響の分析ー</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>日本のソフトウェア産業は、年間約 14 兆円(平成 15 年)の売上高があり、そして約 5,500 社のソフトウェア企業が存在している。しかしながら海外製品によるソフトウェア支配、これによる国内ソフトウェア企業の経営圧迫と信頼性とセキュリティの確保、顧客との直接的なビジネス展開を行えないソフトウェアベンダー、低い IT 教育レベルなど、数多くの問題を抱え、日本の産業の中で国際競争力の低い産業の 1 つになってしまっている。</p> <p>本論文の目的は、日本のソフトウェア産業が、現在の姿になってしまった原因は何であるのか、そしてこの問題を解決し、日本のソフトウェア産業を競争力のある産業にする方法はないのか探るところにある。</p> <p>この数十年の間で、ソフトウェア産業の位置づけ、ビジネスモデルは変化してきた。そして、今オープンソースソフトウェアという新しいソフトウェアのモデルが誕生してきている。このオープンソースソフトウェアが、現在のソフトウェア産業の問題を解決する糸口になるのではないだろうか考えた。</p> <p>そこで、本論文では、このオープンソースソフトウェアがソフトウェア産業に与える影響を明確にする。そして競争力のある産業とするために、今後ソフトウェア企業が取るべきビジネスモデルを提言することが本論文の目的である。</p> <p>結論は次のとおりである。オープンソースソフトウェアは、ソフトウェアが持つ特性、すなわち「規模の経済」、「スイッチングコスト」を低下もしくは無力化することができる。すなわちオープンソースソフトウェアを市場へ浸透させることは、今形成されている産業構造を転換させ、日本のソフトウェア産業の競争力を高めることになる。よってオープンソースソフトウェアを浸透すべく、政府、ベンダー、ユーザー企業が積極的にこれを採用することである。</p>					